

ハヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所 代表：串田嘉男

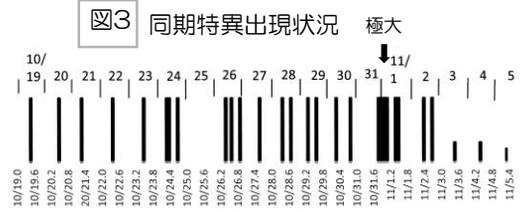
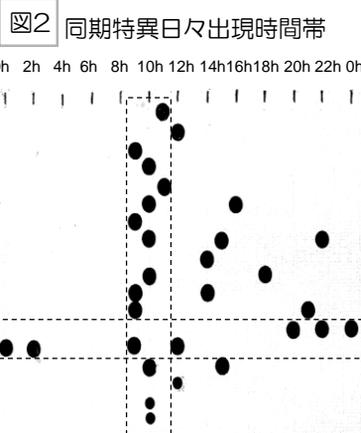
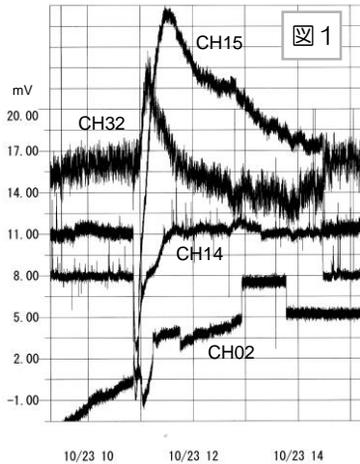
Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴史上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mailまたはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には非ご参加下さい。本年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様へ配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

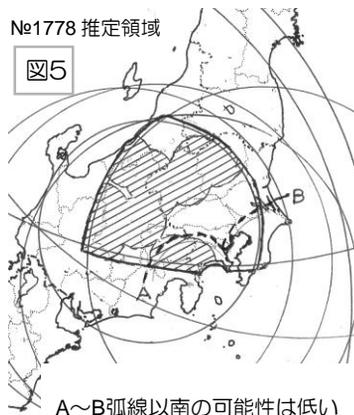
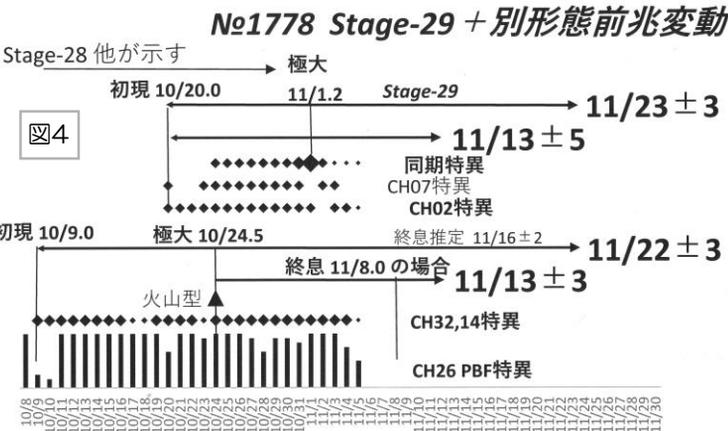
※8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

No1778 長期継続前兆変動 続報

※HP担当の方の仕事の都合で本日迄更新できませんでした。日々配信の観測情報では11/3±2発生の可能性は無いことは既に配信公開済でした。



前続報では、変動が完全静穏化しない理由として、11月初旬に極大が現れるか、余震の多い地殻地震では静穏期が認められないか、の可能性を記しました。図1のとおり、ハヶ岳のみの複数観測装置7基に一瞬で大きく同期して変動する特異が観測されました。出現状況は図2及び図3のとおりで、11月1日に極大が認識されます。出現時間帯はBTから推定される発生時刻9時±2と調和



- 推定領域：図5の太線領域内＝大枠推定領域
図5斜線域＝可能性が考えやすい推定領域 震源が火山近傍領域を含む可能性高い
- 推定規模：主震 M8.0±0.3 または
複合の場合＝M7.4±0.3 + M7.3±0.3 他等
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で 余震を含まない大型地震の断層長 Lkmが合計で約150km程度となる様な複合地震活動の可能性
※火山性変動観測中、数日の観測で近傍火山の噴火の可能性あるか検討予定
- 推定時期： 11/8±2 静穏化の場合＝11/13±3
11/16±2 に静穏化した場合＝11/22±3
- 推定地震：震源浅い陸域地殻地震
- 推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3

Stage-28等の変動関係から10月24日の極大関連を除けば10月31日～11月2日を示していました。11月1日の特異極大を示していたと認識されます。10月24日の火山性変動極大関連と、11月1日特異変動極大に関係すると思われる変動の出現状況を図4にまとめました。

CH26と同期出現していたCH20のPBF特異は静穏化しており、大きな変動だったCH32特異も微弱になっています。

現在継続中の微弱な変動「CH26-PBF特異・CH32特異」が、ここ数日以内に静穏化した場合は、11月13日±3時期に、また11月16日まで継続して静穏化した場合には11月22日±3時期に対応地震が発生する可能性が示唆されます。

今後の変化を観測して続報させていただきます。